

▼ 利用ケース紹介

ADLの向上と共に在宅復帰し 復職したHさん

40代男性／脳出血
右上下肢機能障害2級 言語機能障害4級

移動能力とコミュニケーション能力の向上
を目標にプログラムを実施。

1年後には公共交通機関の利用が可能になり
自宅からの通所に切り替えた。この頃から
職場と復帰に向けて話し合いを開始。

懸案事項であった雨天時の通勤や職場の人
とのコミュニケーションの取り方も獲得され
たため、試験就労を経て、利用開始1年6か
月で原職へ復帰。

単身在宅生活をめざしたKさん

50代女性／脳出血
右上下肢機能障害2級 精神保健福祉手帳2級

単身生活の自立に向け施設で入所しながら
更衣訓練や入浴動作訓練、歩行訓練などに
取り組んだ。10か月後にADLは施設内は杖
歩行、入浴は見守りで行うがその他は自立。

その後、家屋改修を行い、公共交通機関の利
用や家事動作練習にも取り組み、外泊練習
を重ねたのちに、ヘルパーを利用しながら単
身生活の開始と同時に通所へ移行。同時に
デイサービス利用を開始。デイサービスに慣
れ今後の社会生活拡大の足がかりを作れた
ため、1年2か月で当施設の利用を終了。



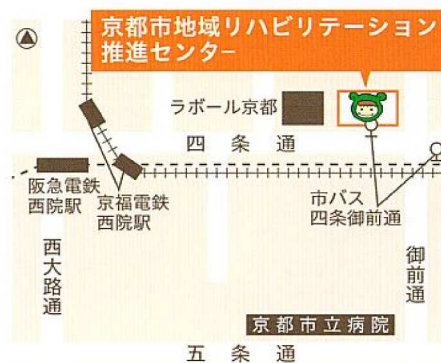
交通のご案内

- ◆市バス：四条御前通バス停下車すぐ
- ◆地下鉄：西大路御池から徒歩15分、又は
市バス26, 91, 203系統に乗り
四条御前通バス停で下車
- ◆阪急電鉄：西院駅から徒歩約3分
(北改札口、南改札口)
- ◆京福電鉄：西院駅から徒歩約3分
- ◆JR：京都駅から市バス利用、
又は二条駅から徒歩15分
- ◆駐車場：あり(駐車できる台数に限りがあり。
送迎時などの短時間利用のみ。)

アクセス検索に
便利なサイトは
こちらから



バス・鉄道の
達人 京都市バス・
地下鉄ガイド



『地域に帰る(地域リハビリテーションの
推進)』をモットーにしている当センター
のキャラクターです。



発行：京都市地域リハビリテーション推進センター
(平成30年2月)
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30
京都市印刷物第293175号

高次脳機能障害の

ある方のための

障害者支援施設 ご利用案内



※障害者支援施設は4・5・6階です

京都市地域リハビリテーション推進センター
障害者支援施設 ご利用窓口

☎075-823-1658

(京都市高次脳機能障害者支援センター)

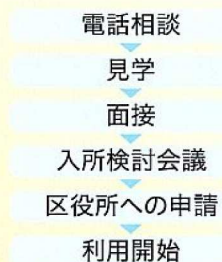


この障害者支援施設は、

高次脳機能障害のある方が、
日常生活の自立や就労等の社会参加に
つながるように訓練を行う施設です。

- ◆ 利用対象者：18歳以上で
高次脳機能障害を有する方
- ◆ 利用定員：入所又は通所で自立訓練
機能訓練 25名
生活訓練 15名
うち施設入所支援 30名
※短期入所も行っています
- ◆ 利用期間：個々の課題や目標に応じて
機能訓練(最長1年6か月)
生活訓練(最長2年)
- ◆ 利用料：世帯の所得により異なります。
詳しくはお住まいの区役所・支所
にお尋ねください。

利用の流れ



スタッフ

サービス管理責任者、生活支援員、理学療法士、
作業療法士、言語聴覚士、心理判定員、看護師、
管理栄養士等のチームで支援を行います。
また必要に応じて医師と連携します。

利用者の ADL状況

歩行もしくは車椅子駆動で施設内移動や食事が
自立されていて、排泄のコントロールができて
いる方。その他は見守り部分介助で可能な方。

▼ 支援の流れ

「自己の気付き」や「家庭での自立度」を高める

施設生活期
施設から自宅へ

地域生活移行期
自宅から地域へ

社会生活移行期
地域から社会へ

将来生活の検討

施設生活の確立

- ▶ 身体機能訓練
- ▶ 高次脳機能訓練
- ▶ ADL訓練(※1)
- ▶ 家屋改修と在宅準備
- ▶ 在宅サービス調整



地域生活を豊かに

- ▶ 外出・通所訓練
- ▶ IADL訓練(※2)
- ▶ 地域生活実践練習



就労準備

- ▶ 事業所利用や
復職・就労に向けた
準備・相談
社会生活技能訓練

体力維持向上

(※1)ADL…日常生活動作(食事・トイレ・入浴・移動等) (※2)IADL…手段的日常生活動作(家事・買い物・金銭管理等)

▼ 各時期でのプログラム例



身体機能訓練



家事動作訓練



社会生活技能訓練



高次脳機能訓練



外出訓練



復職・就労に向けた相談